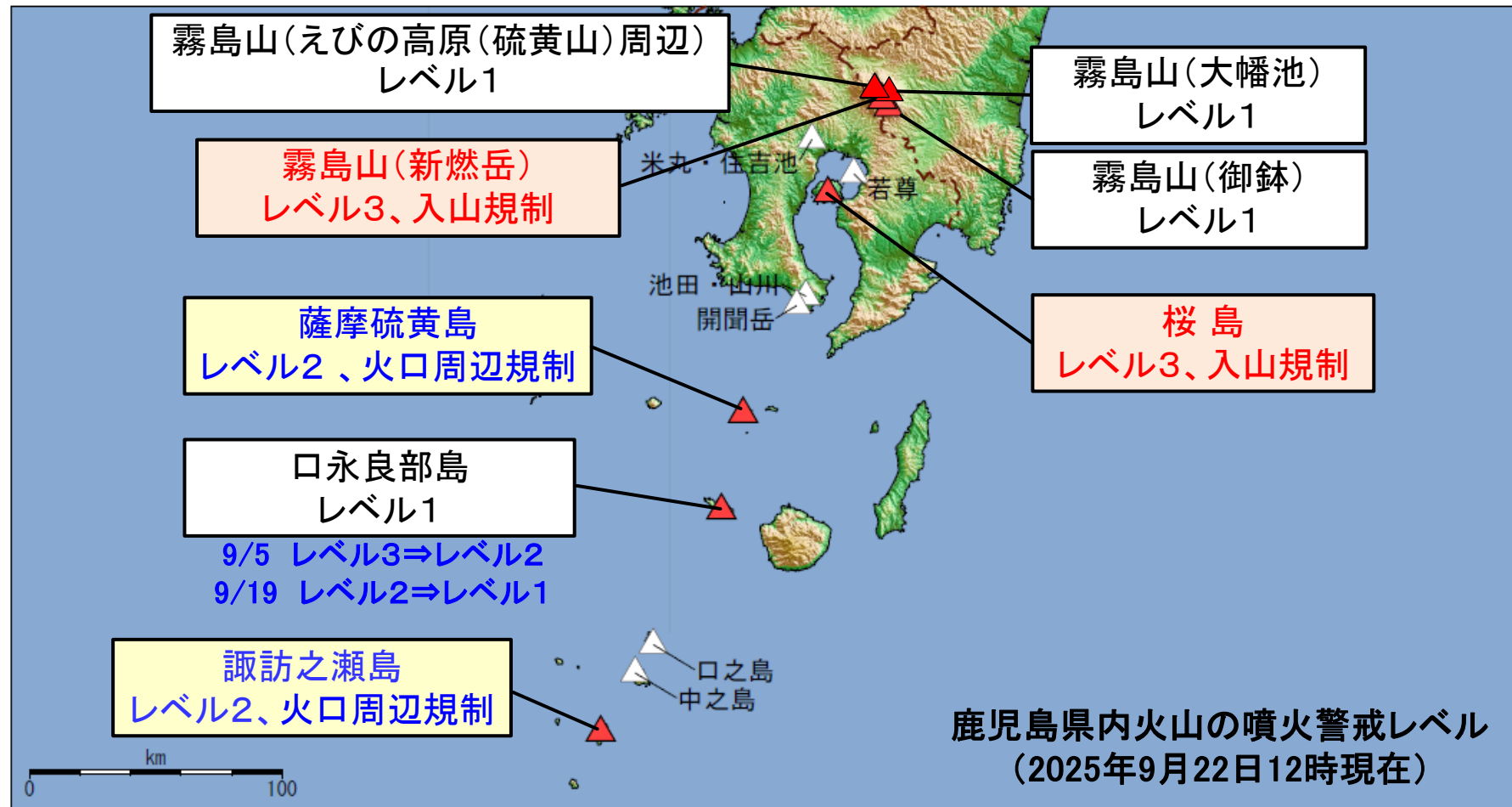


鹿児島県の火山活動概況

2025年8月～2025年9月18日

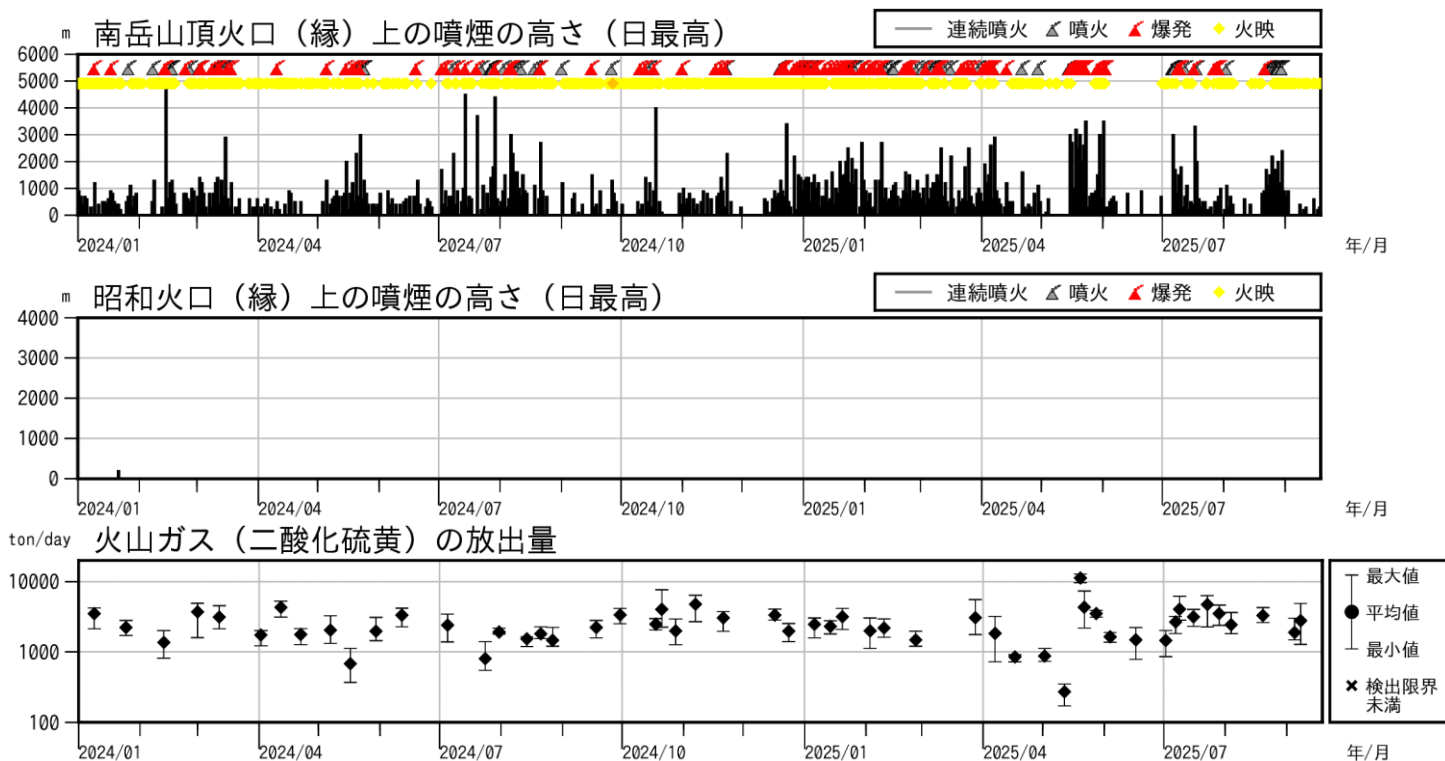


桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲:火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

8月以降の主な状況

活動評価	始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態であり、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態であることから、今後も噴火活動が継続すると考えられる
噴火活動	[南岳山頂火口] 噴火回数 9月(18日まで):0回 8月:17回(うち爆発:1回) 8月30日13時10分の噴火(連続噴火):噴煙の高さは最高で火口上2400m [昭和火口](ごく小規模含め)噴火は発生せず
火山ガス	二酸化硫黄の放出量は1日あたり平均1900~3300トンと概ね多い状態



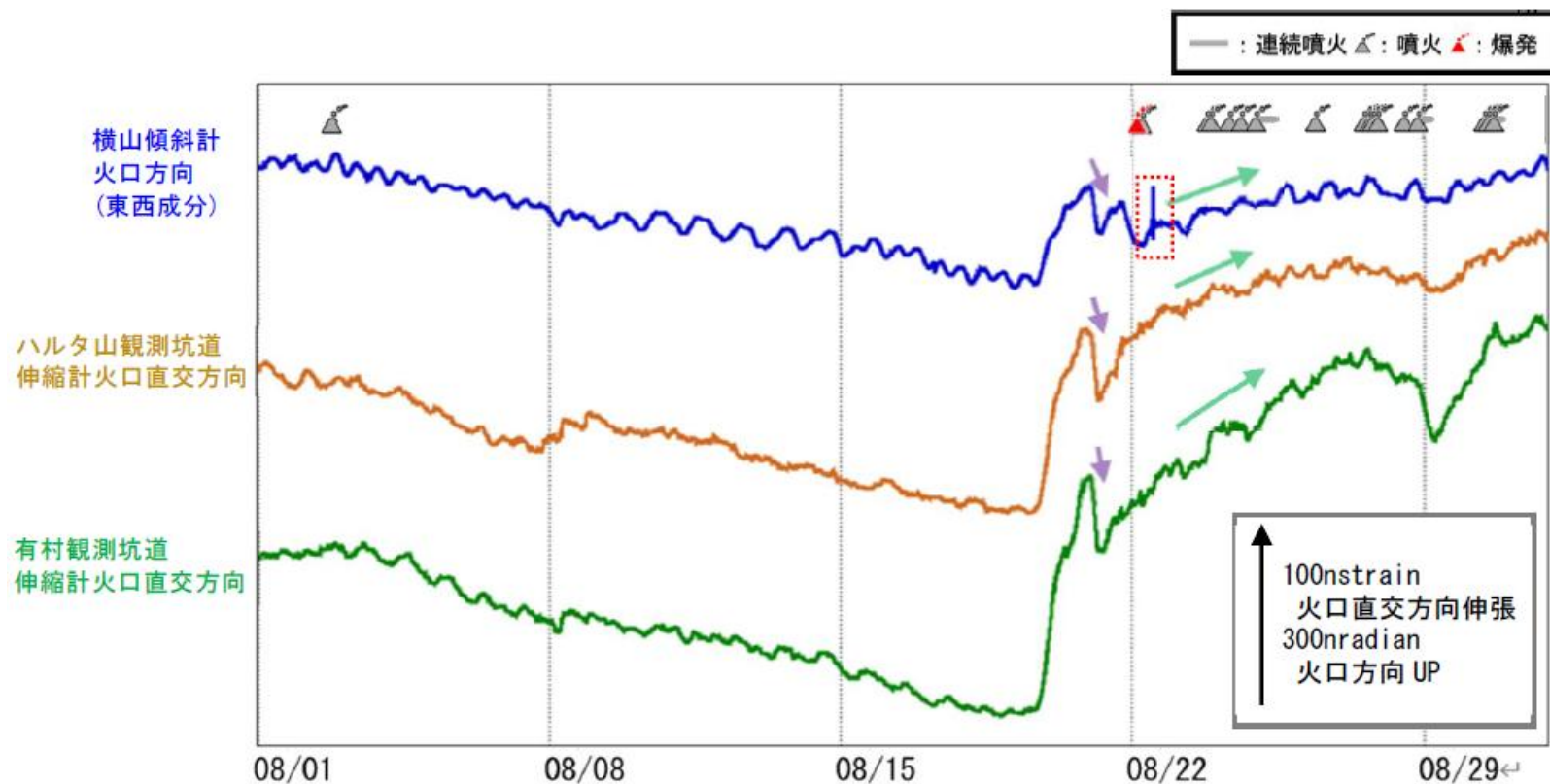
桜島 噴煙・火山ガス活動推移(2024年1月~2025年9月18日)

桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

8月以降の主な状況

傾斜・伸縮 8月19日16時頃から山体膨張(隆起)を観測。8月21日未明から明け方にかけてわずかに収縮(紫矢印)、その後は再び膨張(緑矢印)に転じた。



傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況 (2025年8月1日～8月31日)

※各観測点のデータは潮汐補正を行っている。

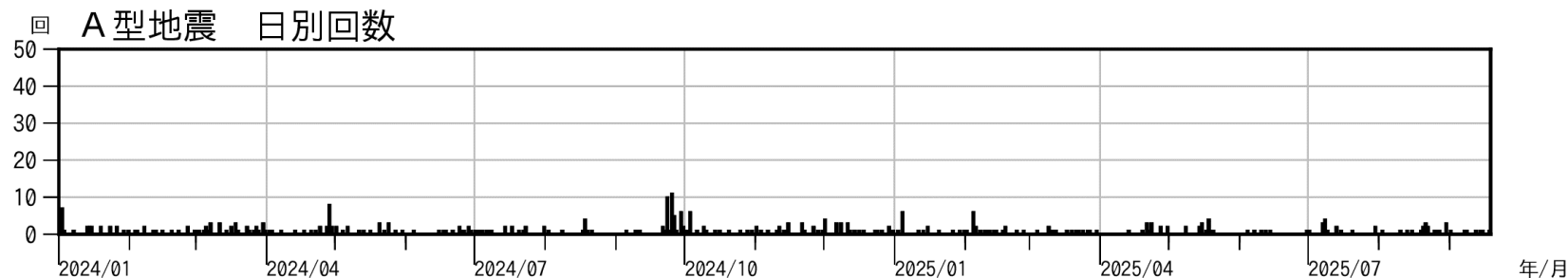
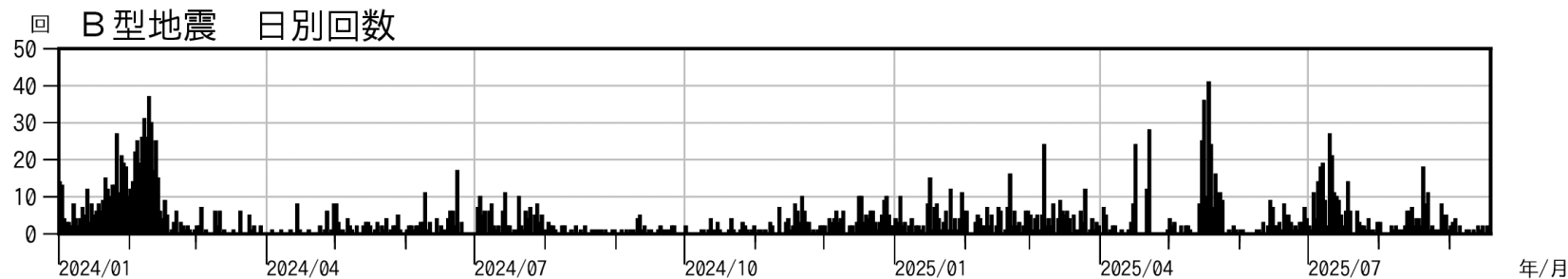
※図の作成には、大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学のハルタ山観測坑道の観測データを使用している。

※赤破線内の変化は遠地地震による影響と考えられる。

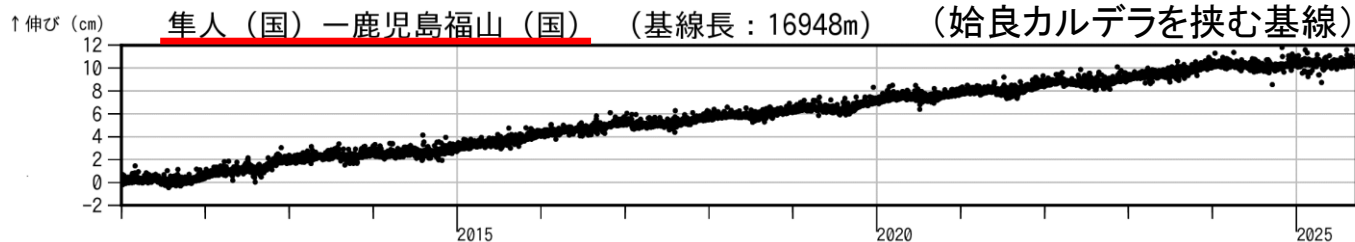
桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

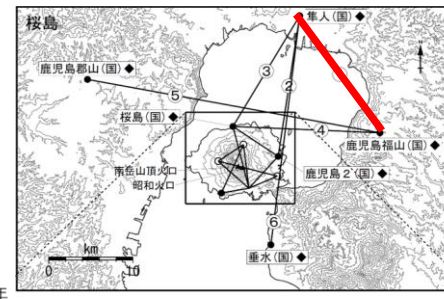
	8月以降の主な状況
震動現象	火山性地震は少ない状態で経過
G N S S	長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる



桜島 地震活動推移(2024年1月～2025年9月18日)



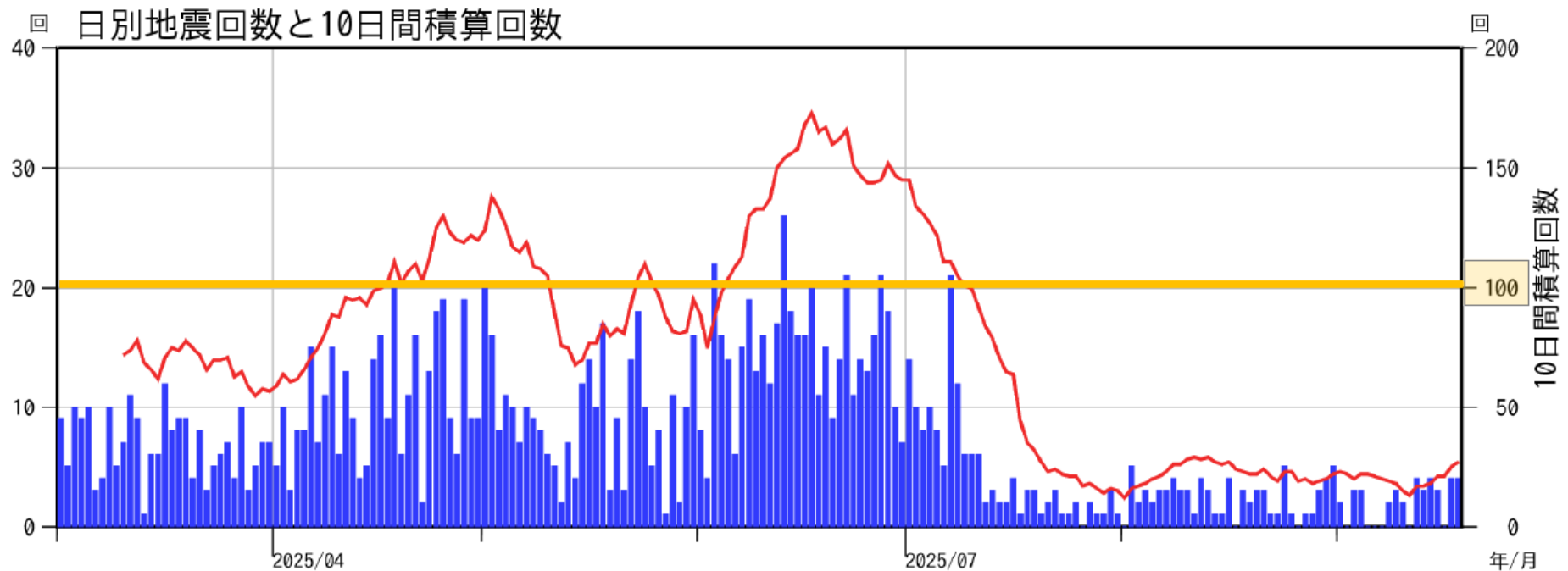
桜島 GNSS基線長変化図(2011年1月～2025年9月18日)



口永良部島 噴火警戒レベル1 (活火山であることに留意)

8月以降の主な状況

活動評価	新岳及び古岳の火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなった
震動現象	4月から古岳火口付近の山体の浅いところで地震活動が活発化し、火山性地震が多い状態だったが、7月頃から減少し、少ない状態で経過している。

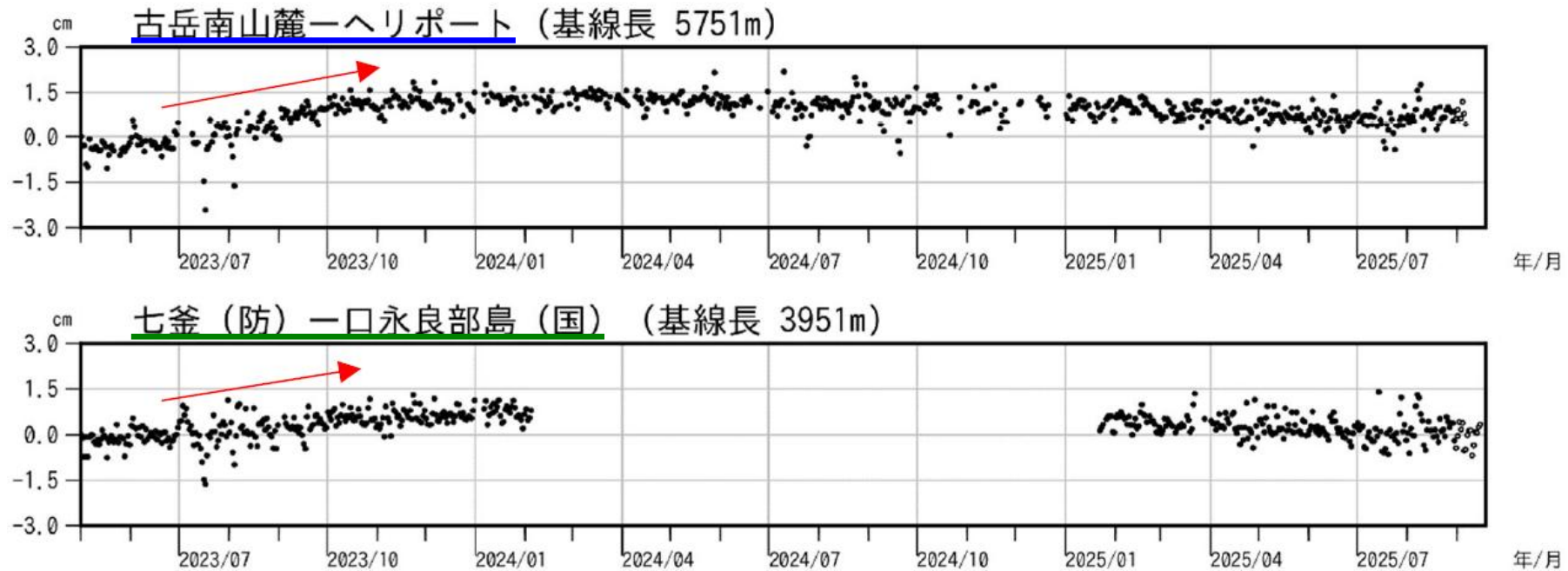


口永良部島 火山性地震の発生状況 (2025年3月～9月18日)

口永良部島 噴火警戒レベル1 (活火山であることに留意)

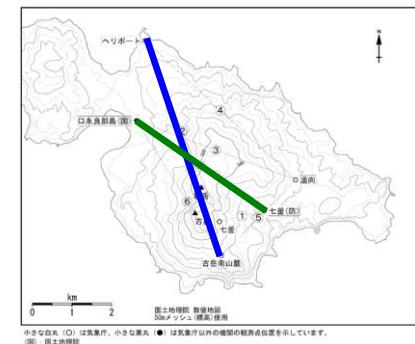
8月以降の主な状況

GNSS 2023年6月下旬頃から同年10月頃にかけて古岳付近の膨張を示す変動を観測（赤矢印）、その後更なる膨張を示す変化は認められない。



口永良部島 GNSS 連続観測による基線長変化(2023年5月～2025年9月18日)

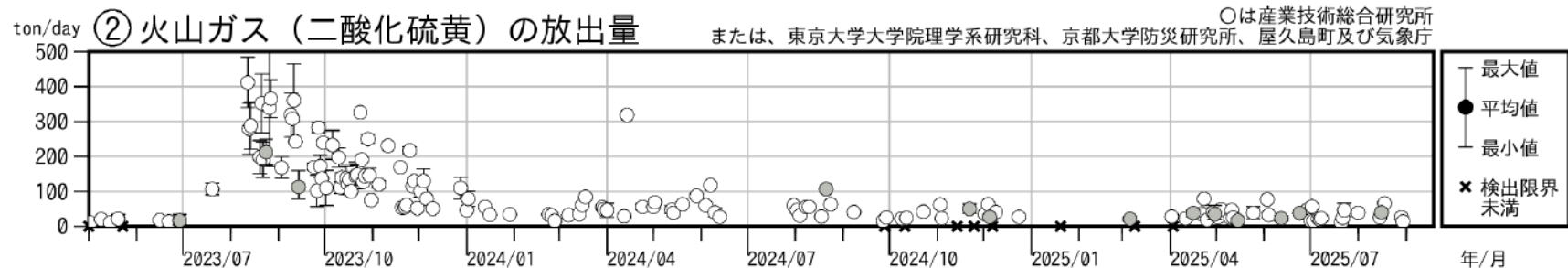
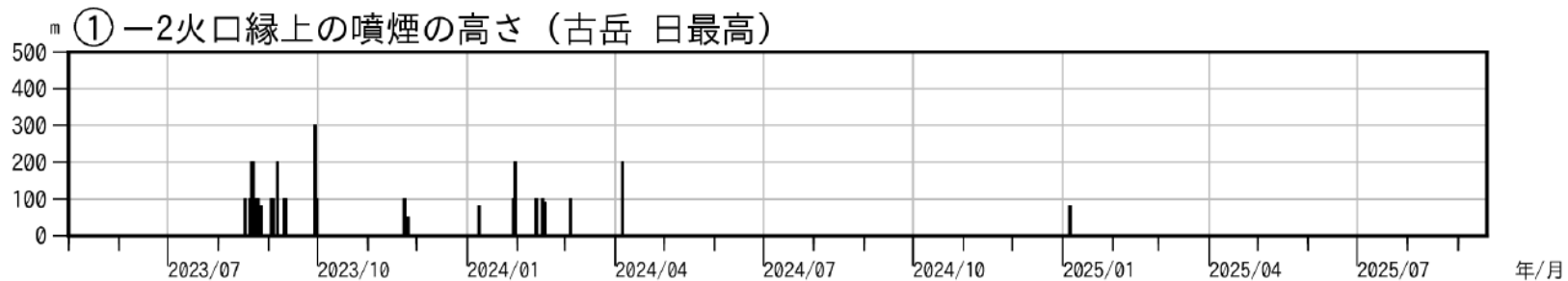
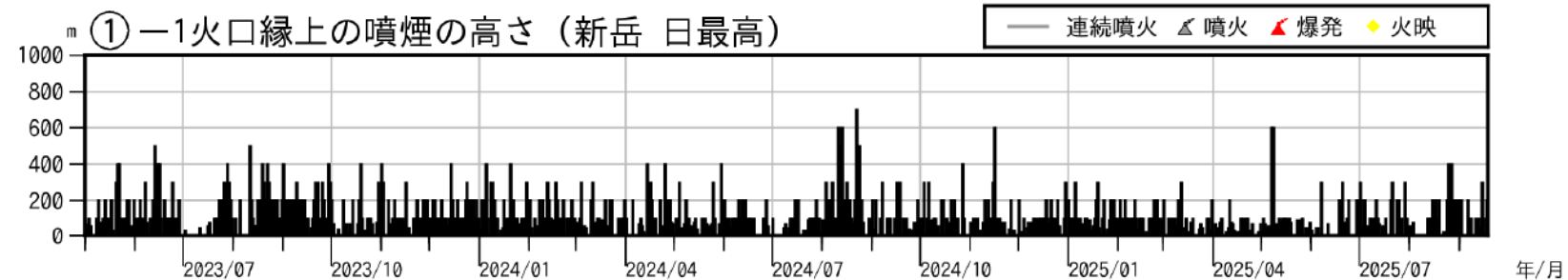
※空白部分は欠測を示す



口永良部島 噴火警戒レベル1 (活火山であることに留意)

8月以降の主な状況

噴煙活動	[新岳火口] 白色の噴煙を観測 最高で火口縁上400mまで上がった [古岳火口] 監視カメラでは火口縁を越える噴煙は観測されていない
火山ガス	二酸化硫黄の放出量は1日あたり平均20～70トンと少ない状態で経過



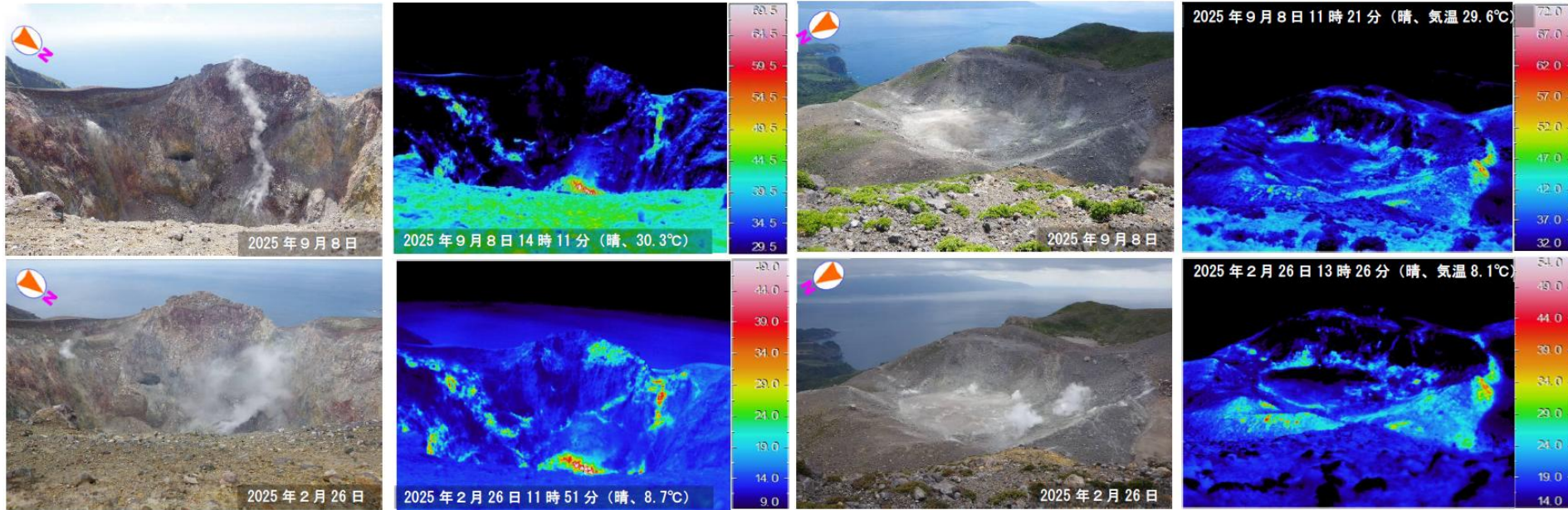
口永良部島 活動経過図(2023年5月～2025年9月18日)

口永良部島 噴火警戒レベル1 (活火山であることに留意)

8月以降の主な状況

現地調査

9月7日から9日にかけて実施した現地調査では、新岳および古岳周辺の状況に特段の変化は認められなかった。



口永良部島 現地調査の状況(2025年9月8日)

左図:新岳火口内の状況 右図:古岳火口内の状況

(各図とも上段は2025年9月8日、下段は2025年2月26日に撮影)

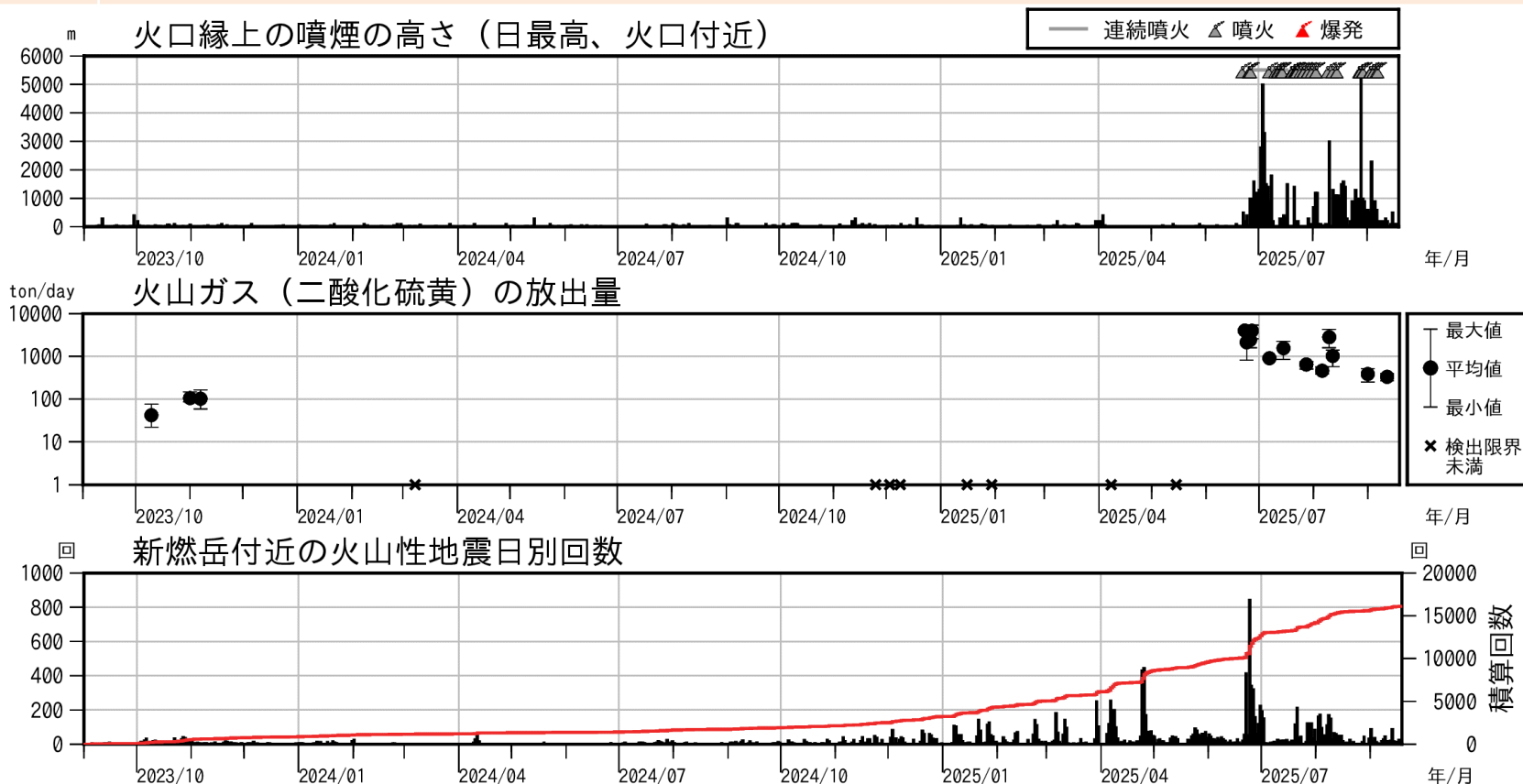
新岳および古岳火口内の噴煙、地熱域の状況に特段の変化は認められなかった。

新燃岳 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね3km
(2025年6月23日18時30分発表)

8月以降の主な状況

活動評価	火山活動は活発な状態で経過、新燃岳火口から概ね3kmの範囲では大きな噴石などに警戒
噴火活動	6月下旬から噴火活動が継続、8月28日04時53分の噴火で噴煙が火口上5500mまで上がる
火山ガス	火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり平均300～2800トンと概ね多い状態で経過
震動現象	2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返し、概ね多い状態で経過 7月上旬から噴火活動の活発化とともに火山性微動が断続的に発生、8月上旬から発生頻度低下



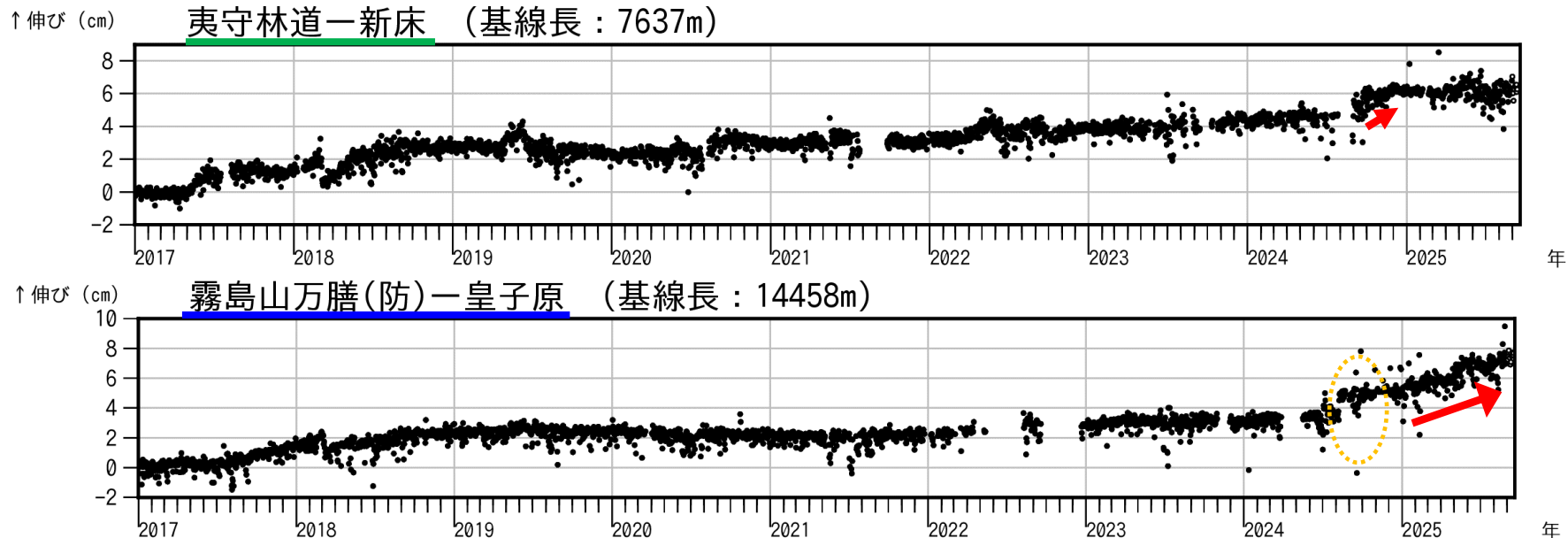
新燃岳 火山活動経過図(2023年9月～2025年9月18日)

新燃岳 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね3km
(2025年6月23日18時30分発表)

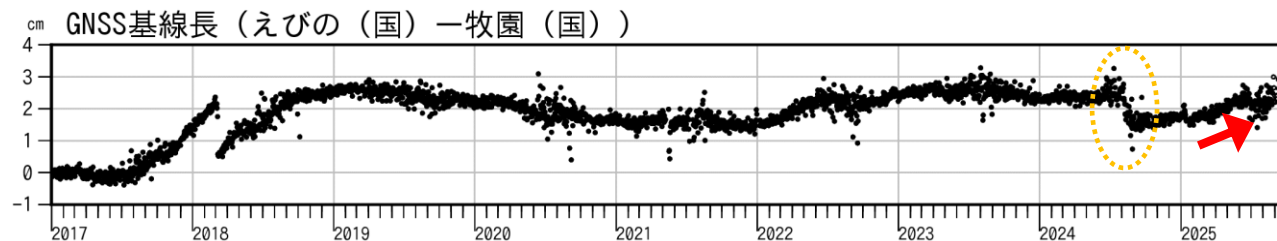
8月以降の主な状況

GNSS 霧島山を挟む一部の基線で、2024年11月頃から新燃岳付近の地下、2025年3月頃から霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが、7月上旬頃からはいずれも停滞。



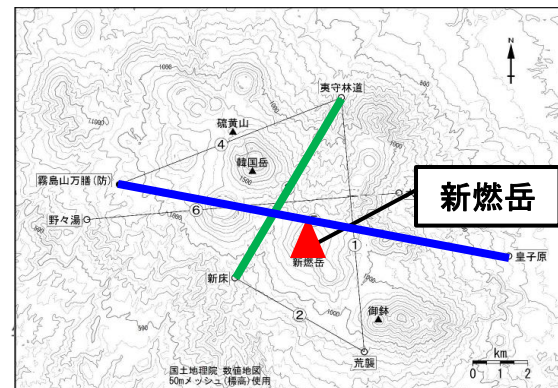
新燃岳付近 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月～2025年9月18日)

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す



霧島山 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月～2025年9月18日)

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す

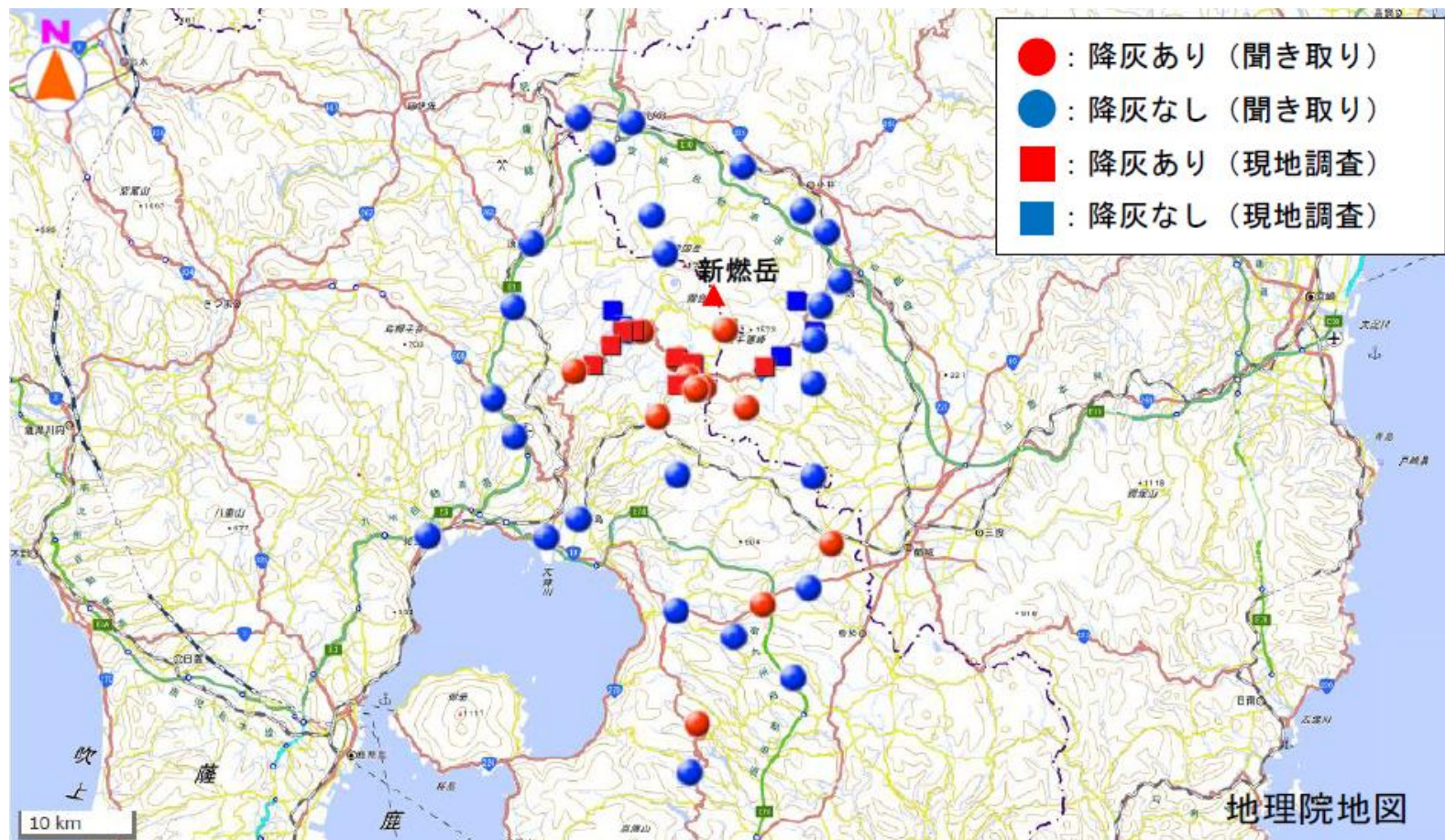


新燃岳 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね3km
(2025年6月23日18時30分発表)

8月以降の主な状況

降灰調査 8月28日04時53分の噴火で噴煙が火口縁上5500mまで上がった。
同日実施した降灰調査では、鹿児島県霧島市、曾於市、鹿屋市、宮崎県都城市のそれぞれ一部で降灰を確認した。



新燃岳 降灰分布図(2025年8月28日)